

〔木曾路名所圖會四〕白雲山高顯院(俗に妙義山と號す)横川よりの道あり、門前に旅舍多し、又

赤城山

それ當山は、波古曾神社、往古よりの地主神なり、延喜帝の御宇、延暦寺第十三の座主法性坊尊意僧正、此御弟子菅丞相ゆくりなき、左遷給ふをうき事におもひ、台岳を退き、此妙義山に閑居し給ふ、抑此御山は、青岩峭壁として、山靜に幽人偏に愛すべき靈嶽なり、遷化の後、こゝに妙義權現と崇め、貴賤の尊信怠る事なし、特に今より百五十年前、奇特ありて、それより宮舍殿閣壯麗に再興ありて、日夜詣人絶る事なし、本坊を石塔院と稱して、天台宗東叡山に屬す、例祭九月九日、山中に大杉七本あり、何れも四尋五尋まはり有奥院は、本社より二十五町あり、岩角をつたひ登れば大日尊を安す、門前の旅舎は、貳町許軒をならべて、山岸に書院を調ひ、詣する人の宿りとす、春の頃は一家に百餘人も泊りて賑はひいはん方なし、靈驗ありとて、關東の人民はなはだ尊敬渴仰なす、故に常にも詣人多し、まづ當國の靈地にして、此山のすがた、世に類ひなき奇異の分野なれば、神靈ある事むべ也、かゝる名山に、かならず靈あり、故に祈ればしるしありとぞしられける。

〔遊囊臘記二十二〕赤城山ハ、東上州無雙ノ靈嶽ナルベシ、拜畢テ、前橋大渡ヨリ水澤ヲ過テ、伊香保ニ到ル。○中略

赤城山ハ、相傳ニ、履中天皇ノ御宇、初テ社ヲ建テ祭ル、柏原ノ帝ニ至テ、詔シテ今ノ地ニ遷サレ、舊地ヲバ三夜澤トテ、東ノ方一里許ニアリ、東ノ宮ハ日本武尊、左ハ大己貴命、右ハ少彥名命、西ノ方豊城入彦命、相殿二座、左ハ天照大神、右ハ大山祇命ヲ祭ルトイフ、

〔上野國志信〕赤城山

數峯群聚總稱赤城(峯巒之名、記之)

黑檜山

赤城ノ最高峯也、神祠アリ、

當此山チ千眼ト云、千手千眼ナリ、別ハ萩原ノ善應寺、天台宗ナリ、

〔吾妻鏡四十一〕建長三年四月廿六日丙辰去十九日、上野國赤木嶽燒爲先例、兵革兆之由、令在廳等申之由云云、